

## 2.14.4. その他の活動

### ○災害支援活動

本研究室では、2011年3月11日の東日本大震災以降、被災地への様々なIT支援を行ってきました。その経験から、災害復旧時の当事者間の意志疎通に関する研究課題である「災害コミュニケーション」について教育、社会実装を目指した研究を進めています。2012年度は、災害コミュニケーションに関する研究教育活動として、①仮設住宅における簡易商店システムの運用、②オンライン津波資料館の構築、③復興ウォッチャーシステムの運用を実施しました。

#### ① 仮設住宅における簡易商店システムの運用

村山研究室が開発・研究室内で運用実験をしてきたプリペイド型簡易商店システムを仮設住宅に導入し、立地の悪さや公共交通機関の便の悪さにより、買い物に不自由している方々に対して生活支援を行うことを試みました。実際に、岩手県宮古市赤前地区の仮設住宅に、商店システムを導入して試験運用を実施しました(図1)。仮設住宅に住む人々からは「もっと続けてほしい」「とても便利だった」という好意的な意見をいただきました。今後は商店システムを遠隔から管理できるよう改良し、運用にかかる時間の短縮を図ります。

#### ② オンライン津波資料館の構築

年月が経過すると共に、津波被害の記憶は風化し、人々は津波の恐ろしさを忘れてしまいます。そこで村山研究室では、岩手県田野畑村と協力し、東日本大震災で三陸地域を襲った津波の恐ろしさを次世代に語り継ぎ、津波被害の記憶を風化させないことを目的とした「平成三陸海岸大津波資料館」(<http://tanohata.go-iwate.org/>)をオンライン上で構築しました(図2)。今後は記憶の風化を防ぐため、繰り返し資料館を訪問してくれる仕組みを検討します。

#### ③ 復興ウォッチャーシステムの運用

村山研究室は、被災地復興への持続的な理解と支援を得るため、復興状況を動画や静止画を用いて視覚的に共有する復興ウォッチャーシステムを構築しました。被災地に実際に赴き、静止画版の復興ウォッチャーシステム(図3)を釜石市と山田町に設置し運用を行いました(<http://rw.go-iwate/kamaishi>, <http://rw.go-iwate/yamada>)。今後はより自律的なシステムへ改良すると共に、ソーシャルな仕組みにより閲覧者同士のコミュニケーションを行えるようにしたいと思っています。



図1：仮設住宅で運用した  
簡易商店システム



図2：平成三陸海岸大津波  
資料館



図3：復興ウォッチャー